



この新しい挑戦を
みんなと一緒に楽しみたい。

NEXT NEW CHALLENGE

令和4年度 事業報告書（概要）

社会福祉法人 京都総合福祉協会



令和4年度 の活動と成果



1 京都総合福祉協会 社会福祉法人 設立50周年



2 洛西ふれあいの里施設の再整備 京都市の民間移管



3 利用者を取り巻く環境の改善に向けて

- (1) コロナの状況や影響、対応
- (2) コロナ禍での各事業所の創意工夫
- (3) 居住や活動場所の環境整備
- (4) 地域とのつながり



4 職員を取り巻く環境の改善に向けて

- (1) 職員採用、定着に向けた取組
- (2) 退職の状況
- (3) 研修
- (4) ICT活用などによる業務改善



5 専門性を生かした最良の支援を目指して

- (1) 虐待防止に向けた取組
- (2) 各事業所での支援実践

1 京都総合福祉協会 社会福祉法人設立50周年

京都総合福祉協会は、令和4年4月に、法人設立50周年を迎えた。
(昭和47年3月30日設立認可、昭和47年4月18日法人登記)

- (1) 法人設立50周年記念事業実行委員会(16名)を中心に
- ・記念誌制作
 - ・記念動画制作
 - ・記念セミナー
- を企画

令和5年2月7日に、国立京都国際会館アネックスホール開催した記念セミナーでは京都市、京都府からのご来賓、歴代役員や評議員、ご利用者やそのご家族、関係機関など259名と協会職員124名(うちスタッフ38名)が参加。

- (2) 50周年を機に、これまでの支援実践を振り返るとともに、
- ・協会基本理念の文言整理
 - ・今後概ね10年間の取組方針を示す長期ビジョン
 - ・それを踏まえた概ね5年間の主な取組となる中期計画 を策定。





**京都総合福祉協会
法人設立50周年
記念セレモニー**

～NEXT 共生を目指す創造的実践～

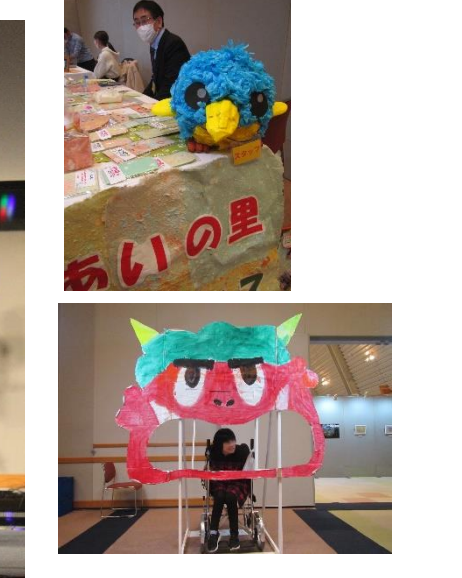
1950年代のボランティアによる障害児療育キャンプ活動から生まれた京都総合福祉協会は、障害のある方々の生活とつながりを大切にしてきました。1972年の法人設立以来、「自立と参加」を理念とし、利用者やその家族の抱える思いがカタチになるよう、特に生活や制度に欠けし必要なサービスを開発してきました。現在では、「共生を目指す創造的実践」をキーワードに、児童、障害、高齢の幅広い分野で、ライフステージにあわせ、京都市内22事業所で福祉事業を展開しています。

今年で（2022年度）、法人設立50周年を迎え、皆さまと多くの皆さまを繋ぐ活動とともに、新たな実践に向けたスタートとして、記念セレモニーを開催いたします。多くの方のご来場を心よりお待ちしております。

事業所商品販売
法人のおゆみDVD上映
講演&パフォーマンス
事業所舞台発表
各事業所の作品展示

2023年
2/7 火
12:30～15:00
11:30受付
※10:30～販売・展示

国立京都国際会館 アネックスホール



2023.2.7
国立京都国際会館
アネックスホール

2 洛西ふれあいの里再整備 京都市の民間移管



- 令和4年7月に京都市の民間移管に係る公募に応募（土地・建物の予定価格（最低売却価格）の452,000,000円で応募）。
- 同年12月には、京都市会において京都市の公の施設である洛西ふれあいの里の各施設を廃止する条例改正案や不動産の処分に関する議案が可決。
- 京都市指定管理期間満了日の翌日の令和5年4月1日より、施設が当協会に移管。
「洛西ふれあいの里福祉施設再生事業」を進め、老朽化した施設の改修や設備の更新を進めていく。

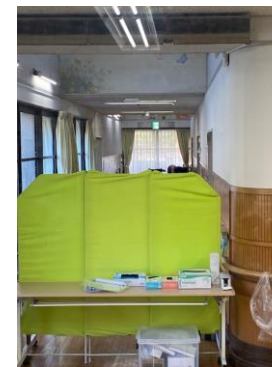
3 利用者を取り巻く環境の改善に向けて

(1) 新型コロナウイルス感染症の状況や影響

ア 令和4年度発生状況

(人)

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
感染者	利用者	4	5	10	15	59	21	2	46	28	10	0	0	200
	職員	3	6	5	22	54	13	8	23	36	12	0	1	183
濃厚接触者	利用者	5	6	0	16	29	7	0	2	12	0	0	0	77
	職員	5	2	1	11	2	2	0	5	6	8	0	0	42



レッドゾーン
対応



*集団的感染(クラスター)の発生

7事業所で9回 計166名(利用者:118名、職員:48名)



うち、最大規模は、京都市大原野の杜8月10日~23日まで、利用者39名と職員17名の計56名が感染

*通所事業所における休所 12回・のべ27日休所

*診療所の取組 入所3事業所と一部の通所事業所の利用者及び職員に対し611件(4回目接種322件・5回目接種289件)のワクチン接種を実施。また、施設内の治療としてラゲブリオ・ゾコーバの処方が可能に。

イ 給付費・就労支援事業収入などの年間状況(令和3年度比)

生活介護事業所 7.2%増
 居住系事業 0.5%増
 居宅支援事業所 1.0%減

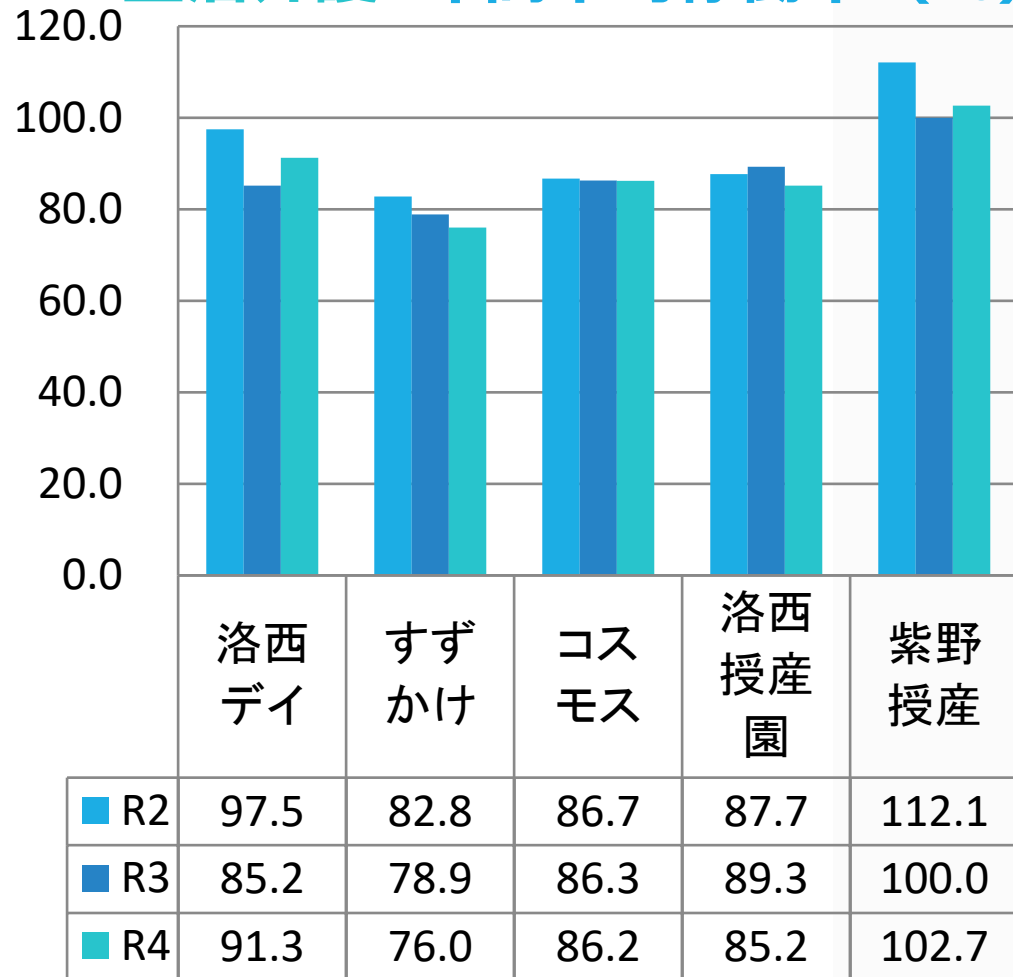
高齢通所介護事業所 1.7%減
 就労支援事業 1.9%増
 児童通所施設 7.6%減

当期活動増減差額(事業活動計算書)
 △57,000千円
 京都市補助金の減、水光熱費の高騰、社会保険加入要件適用拡大、法人設立50周年事業等支出増

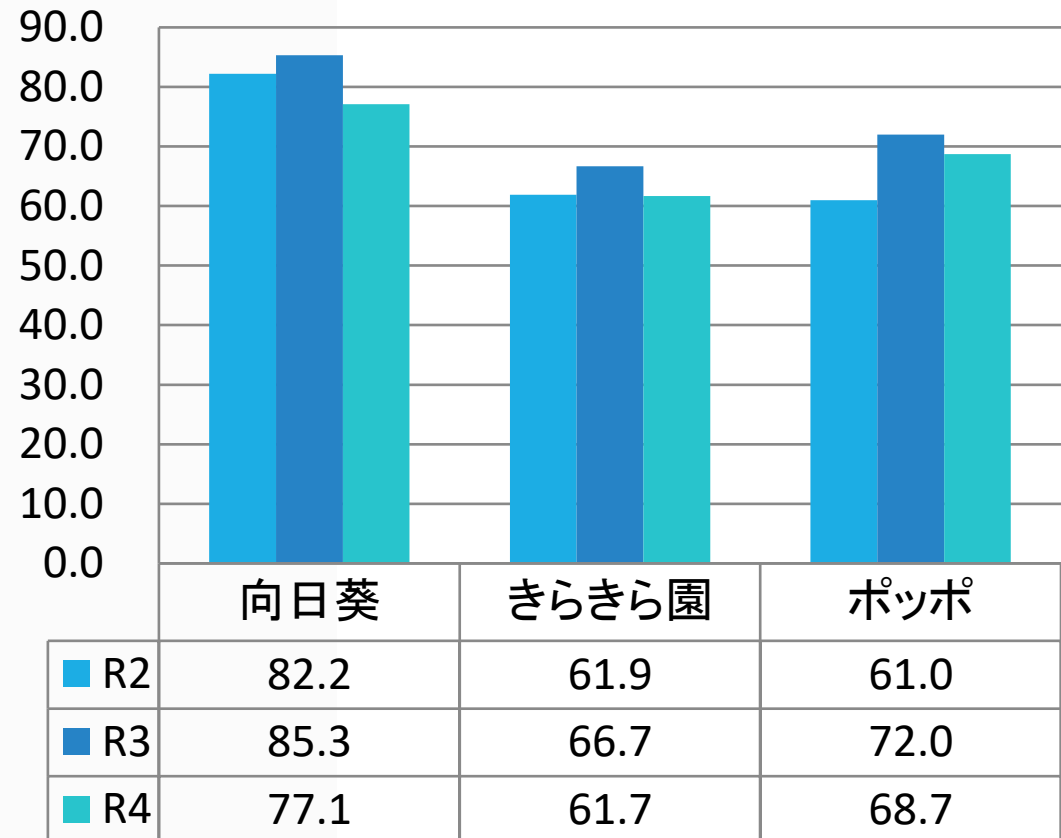
就労支援事業収入 2.2%増

ウ 稼働率

生活介護 年間平均稼働率 (%)

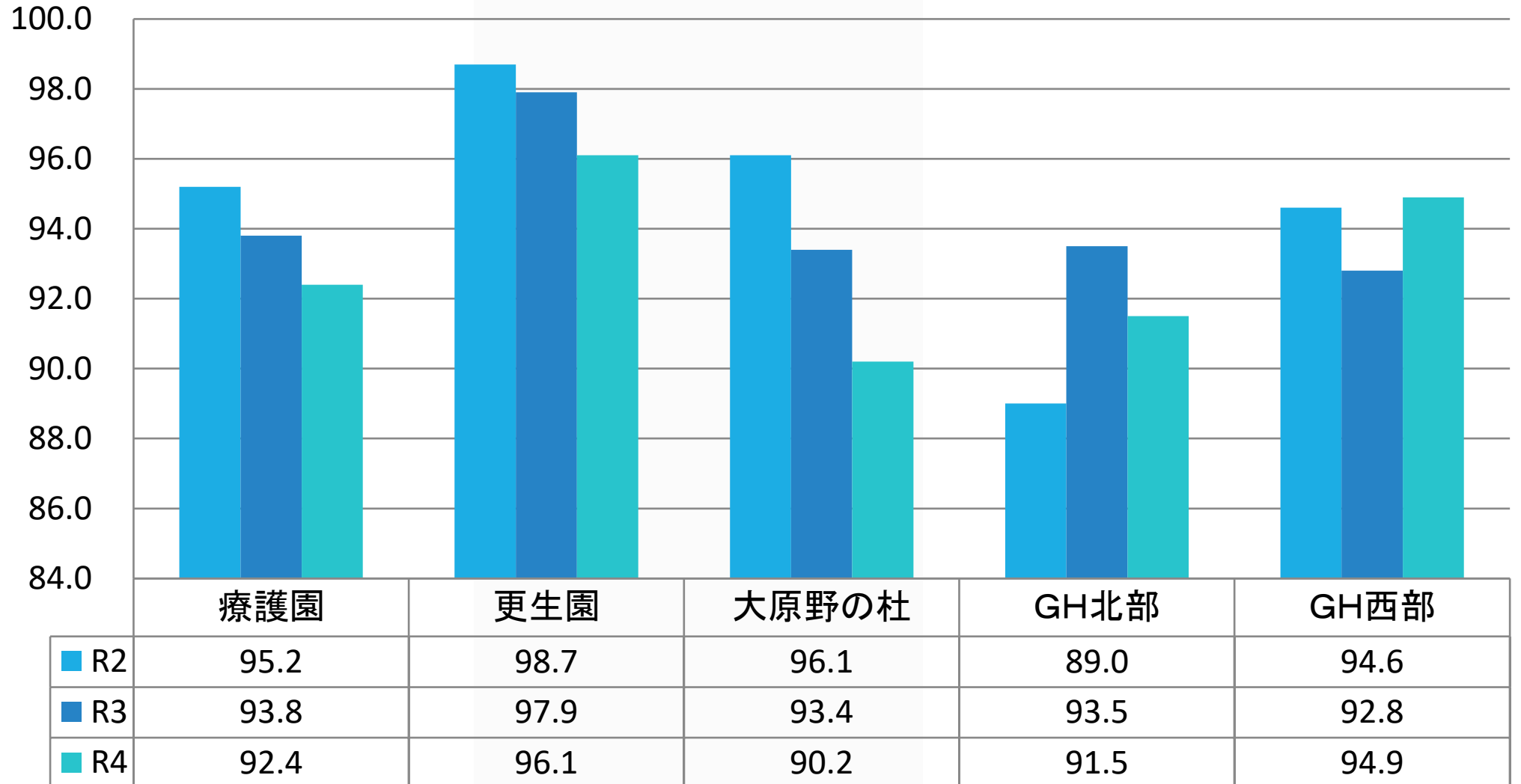


高齢、児童 年間平均稼働率 (%)

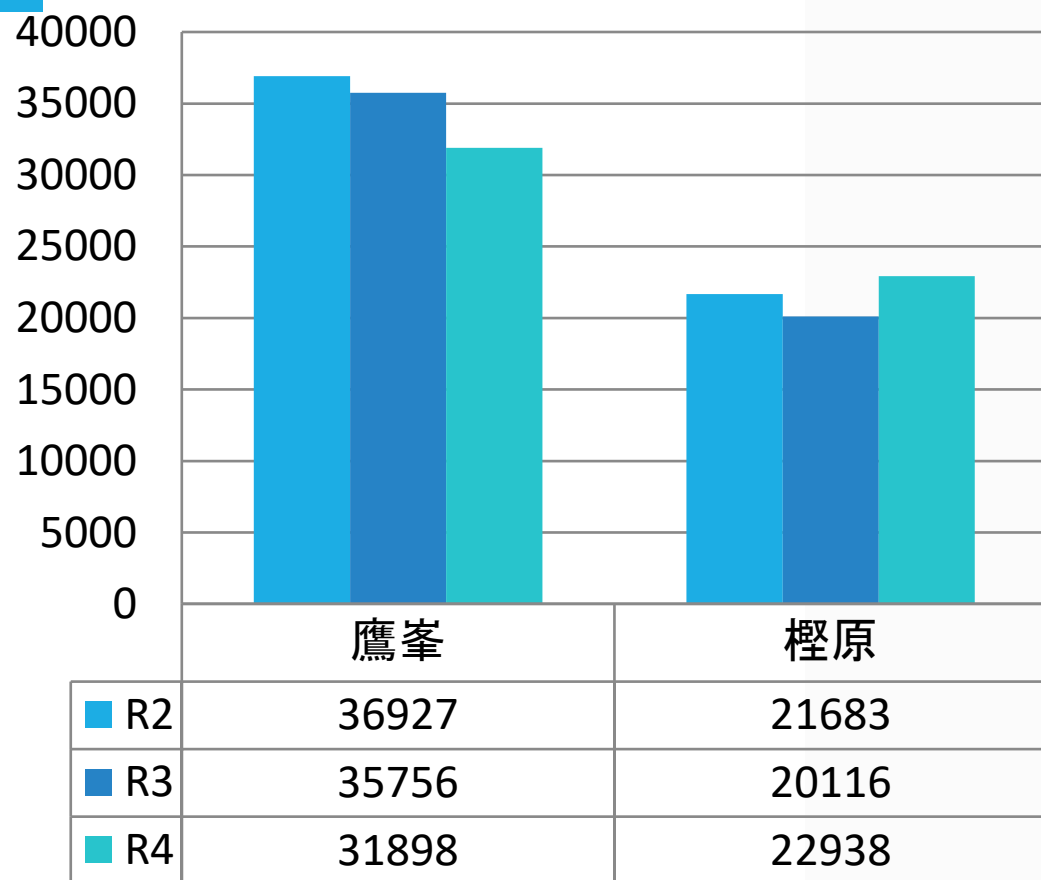


居住 年間平均稼働率 (%)

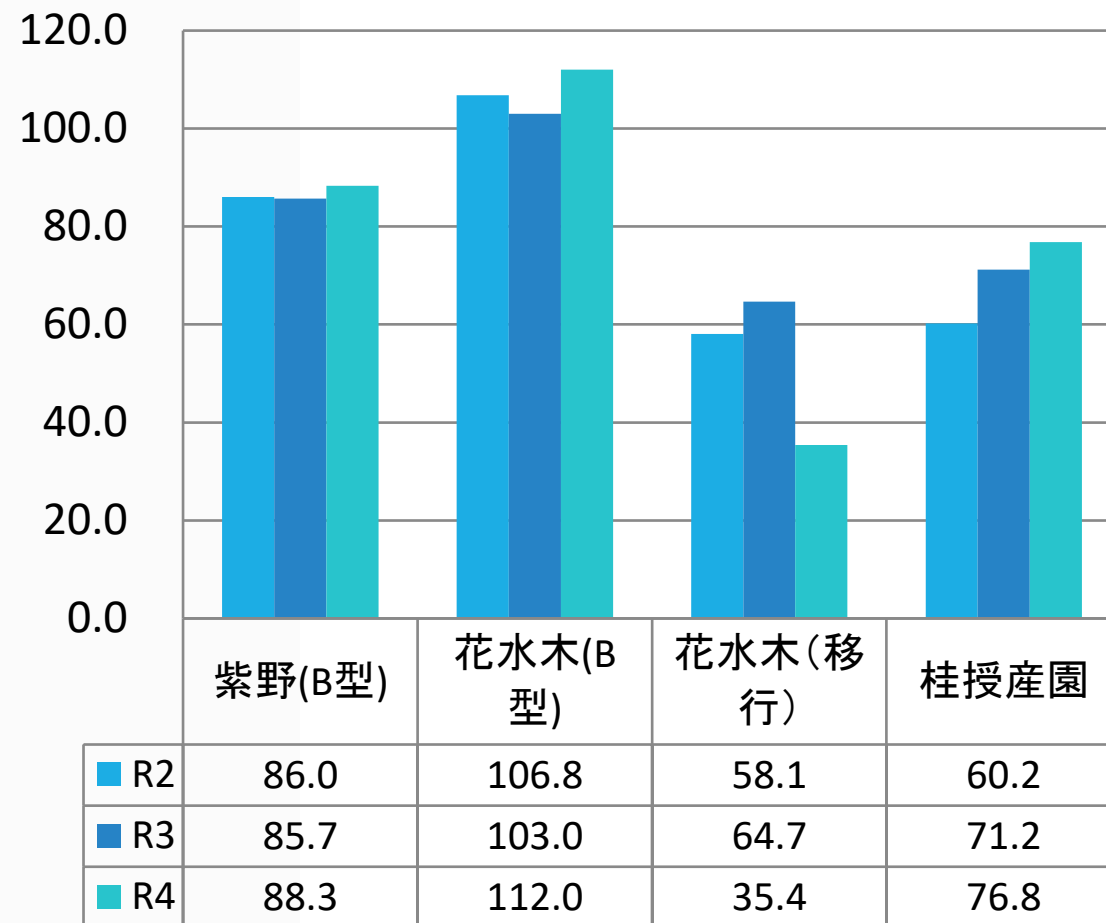
(入所施設支援、グループホーム)



居宅 年間支援実績（時間）



就労系 年間平均稼働率（%）



(2) コロナ禍での各事業所の創意工夫

<入所、グループホーム>

- ・医務との連携会議を月に2回設け、個々の支援・医療の支援方針をまとめ、各医療機関との連携を強化（療護園）。
- ・各ホームに空気清浄機を購入設置。感染者の隔離や一時避難先として近隣の賃貸マンションの確保を検討したが、そのような目的では、賃貸契約が実現せず。濃厚接触者については京都市施策にあるホテル利用を活用した（グループホーム）。
- ・季節のイベントを多数企画したり、週末の買出しを積極的に行った。また、園芸（非常勤職員によるボランティア）で施設の空き地を飾ることで、利用者の中には自分でも花を育てたいと園芸意欲が高まる場面もあった（療護園）。
- ・クレープ、パフェ作りなどのイベントを管理栄養士と協力して実施（更生園）。
- ・音楽療法やお菓子作り、散歩などを再開。マスク着用が可能な利用者は、コンビニでの買い物や個別外出にも出かけるようになった。他、4人までの少人数での外食を再開した。外部講師を招いてのお茶、お花、絵画の活動はコロナの感染状況に応じて、随時講師と相談しながら実施。絵画については、京都府主催や知的障害者福祉連絡協議会の作品展などにも出展して多くの方に披露した。また家族懇談会の際に生け花と絵画の作品を展示し、ご家族の皆様にも見ていただいた（大原野の杜）。

<ご家族の声>

大原野杜では、家族との個別懇談会を実施（25名の利用者のご家族や後見人が参加）。施設での取り組みや利用者様の日常の様子を伝え、日頃心配されていること等も聴き取り、直接お返事することで安心していただけている。

聴き取った要望では、

- ・「散歩など運動をしてほしい」
- ・「日帰り旅行などのレクリエーションの再開」
- ・「買い物などの社会との関わりを持つこと」

などが多く、高齢化やコロナ禍での体力や筋力の低下、社会からの遮断を心配されていることが伺えた（大原野の杜）。



家族懇談会で展示した
利用者の作品



散歩



余暇 クレープ作り



余暇 調理(お好み焼き)



夕涼み会



非常勤パートの
みなさんによる園芸



外食



行事 お寿司昼食





お花

音楽療法



絵画



<通所>

- ・コロナの影響で控えてきたクッキング活動を再開。自分たちで調理し楽しみとして食べることは、わかりやすい活動であるため、積極的に参加された(洛西デイ)。
- ・福西分室(きみいろ)の活動が定着化。絵画・創作・音楽・クッキングなど少人数でのプログラムが、ご利用者の楽しみに。他、旅行についても、少人数で短時間の内容になったが、秋に近場でのレクリエーションを実施(授産園)。
- ・屋内活動では創作、ガーデニング、音楽、リラクゼーション、リサイクル活動に加えて、感染予防をおこなったうえでクッキングも実施。屋外では畑活動、昼食やデザート購入、公園で遊具を使った活動、散歩や植物園の散策、ウォーキングを実施。利用者の作品を集めた「まいふえいばりっと展」を開催し、利用者家族やふれあいセンター事業所職員の皆さんから好評をいただくと共に交流につながった(コスモス)。
- ・屋外での活動として外での飲食等を伴う外出を実施(紫野授産所)。
- ・フラワーアレンジメントやトールペイント等の教室を少人数制で再開した。合唱等の音楽イベントは控えたが御朱印帳のカレンダーづくりなど創作を中心とした新たな内容を提供(通所介護向日葵)。

コスモス・法人設立50周年出展



コスモス・クッキング



授産園 きみいろの活動



洛西デイ・法人設立50周年動画出演



授産園 忘年会



<相談>

・相談支援専門員のスキルアップを目的とする研修会（圏域向け3回）をオンライン／参集形式で開催。オンラインを活用することで、従来以上の参加者数が得られた会もあり、新たな支援者とのつながりが生まれる機会となった（うきょう）。

・在職者のための交流活動として交流サロン「ぽろぽろ」を中止にすることなく開催。昨年度コロナウィルス感染拡大により延期としていたピアセミナーをハイブリッド型ではあったが、開催。実際に企業就労されている方の就職までのプロセスややりがいを直接聞くことで、イメージが付いた方が多くいた為、今後も継続して実施していく（就業・生活）。



休日サロンほろぽろ



ピアセミナー



事業所職員向け研修会



(2) 居住や活動場所の環境整備

ア 洛西ふれあいの里福祉施設再生事業

洛西ふれあいの里再整備に向けては、前述2のとおり、民間移管されたことを受け、利用者が暮らしやすい環境整備に向け令和5年度から再生事業を着実に推進していく。新たに「ふれあいの里担当部長」を配置する。

イ グループホーム西部の住環境整備

京都市と連携して、洛西ニュータウン北福西市営住宅の空き住戸（親子ペア住宅）に、4月より新たなグループホームを開設。洛西ニュータウンにおいては初めての試みでもあり、開設前は地域住人から不安の声も聞かれたが、入居後は月1回の一斉清掃にも参加し、ご近所の方と挨拶を交わす中で住人の方々の理解も深まってきた。利用者が掃除で力仕事を任されたり、体の不自由な高齢の方を助けたことがきっかけで感謝される場面もあり、“若い人が来てくれて嬉しい”と周囲にサポートしてもらえばかりでなく、住人同士相互に助け合う関係性を築けている。

高齢者対応ができるグループホームのバリアフリー化と狭隘な事務所環境の改善に向けて、7月に建て貸し物件の賃貸借予約・賃貸借契約を締結。現事務所と同じ町内で約100m離れた場所にあり、1階が事務所、2階がグループホームの設計で現在建設工事中である。令和5年8月に移転を予定。

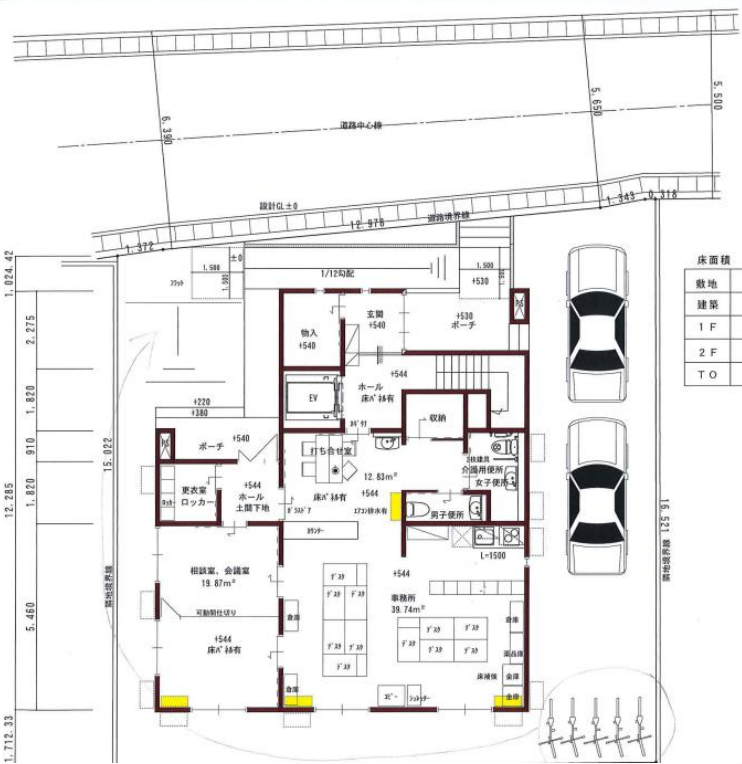
ウ その他施設の環境整備など

開所当初から設置しているファンコイルタイプ（ガス式）の空調設備の老朽化に伴い、ルームエアコンは電気式にして、各部屋（12台）で温度調整ができるようにした。ファンコイルエアコン配管の結露による床の剥がれを改修（療護園）。

1F男性トイレ・2F女性トイレ改修、男性浴室の改修（更生園）。

クリーニング2班暑さ対策のための環境改善工事を実施。夏場に3℃程度室温を下げることができ、一定の効果があつた（授産園）。

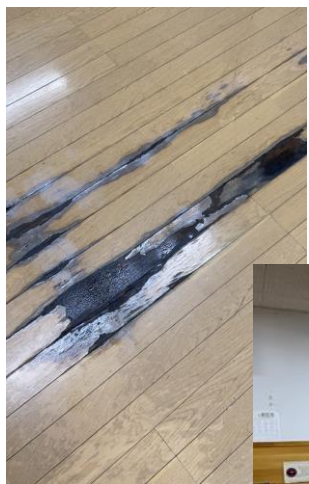
Wi-Fiアクセスポイントの増設（大原野の杜）、新たなWi-Fi環境整備（コスモス）。



- ※1階の用途：事務所 2階の用途：グループホーム
- ※昇床仕様、2階 3室ごとに昇盤
- ※1階天井高さ：2500 2階天井高さ：2400
- ※収容人数：17名 ?
- ※二方向避難、消防との協議が必要
- ※無窓階対応
- ※フクマチの申請 対応
- ※4号申請 EV同時申請
- ※事務所 非常用照明 必要
- ※山ろく型 修景 申請必要 軒の出 600以上

省令準耐火

床面積 M ²	
敷地	251.17
建築	119.24
1F	110.13
2F	119.24
TO	229.37



結露で腐った床の張り替え



バリアフリー化のグループホームと事務所の検討 (R5、8移転を目指している)



(3) 地域とのつながり

① 新 洛西ふれあいの里秋まつりと桂坂文化祭(地域イベント)を合わせた形での、桂坂オータムフェスタを11月に桂坂小学校で新たに実施(洛西地域の各施設)。



② 新 ふれあいの里診療所では、近隣福祉事業所9か所に対し257件のインフルエンザ予防接種を公益的取組として新たに実施。

③ 新 京都市の公立小学校「総合的な学習の時間」の福祉の学習において、授産所より学校へ出向き、パラリンピックの種目にもなっている障害者スポーツである「ボッチャ」を通じて児童と事業所の職員や利用者交流をおこない、福祉についての理解を深める機会を新たにすることができた。また、佛教大学においても、合同ゼミの中で利用者と学生が「ボッチャ」の交流試合を行うことで、お互いを知る機会をつくることができた(紫野授産所)。

④ 新 「まいふえいばりっと展」を開催。来ていただいた利用者家族やセンター事業所職員の皆さんから好評をいただくと共に交流することができた(コスモス)。

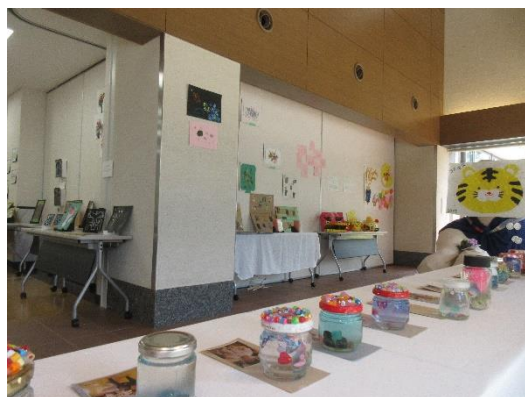
⑤ 新 U-ネット(右京区内の福祉事業所と地域がつながる活動)20周年記念イベントの開催(うきょう)。

⑥ 新 基幹支援センター事業の一環として、全市民向けに「障害のあるきょうだい」をテーマとして映画上映での啓発事業を行った(うきょう)。

- ・「きょうと子育て応援パスポート事業」への協力として、飲料の無料提供を継続（花水木）。
- ・近隣保育園とのクリスマス会は中止となるが、紙すき活動にて利用者が作ったペン立てを園児へのプレゼントとして保育園へ届けた（洛西デイ）。
- ・ケナフ栽培から紙漉き体験までを地域の小学校2校との交流学习として実施。春の種まきから植え替え、枝打ち、刈り取りと順次行い、最終の紙漉きまで一緒に実施することができた。長年継続しているため利用者も民生委員の方々と顔見知りとなりスムーズに言葉を交わす様子も見受けられた。（大原野の杜）。
- ・葵児童館のはなまる広場に月に1回参加し、子育て相談を行ったポップ）。
- ・HOP農園では、児童館の子どもたちに芋掘りをしていただいた。（すずかけ）。
- ・洛北高校附属中学校2年生（40名×2クラス）に対して介護疑似体験の講義及び実習を行った。高齢者の身体的特徴や心理面に関する講義と実際に高齢者の側で立ち上がりや歩行介助、車いすの操作などを体験頂いた（向日葵）。
- ・研修室の無料貸室（自立支援協議会・地域利用）、調理室（配食ボランティア）・車いすの貸出（北山ふれあいセンター）。



コスモス・まいふえいばりっと展



桂坂オータムフェスタへの出展



「ボッチャ」の交流

令和4年度 京都市基幹支援センター障害理解の普及・啓発事業

障害のある家族と暮らす ～「きょうだい」の立場から

障害のある方にも家族があり、家族とのあゆみがあり、家族としての役割があります。親とは異なる関係の中で一緒に育つ「きょうだい」の喜びや悩み、まわりに望むことを知り、障害のある方とその家族が地域で生き生きと暮らすために私たちができることを一緒に考えてみませんか？

●映画「僕とオトウト」上映(約50分)
●監修(きょうだい)の動画コメント(予定)
●きょうだいによるトーク
- 一緒に悩んでいる際の兄弟姉妹に対する思い、親への思い
- 自身の自立(遠慮でも、仕事、結婚などの決断の思い)
- 周りからの言葉や態度でつらかったこと、つらかったこと
- 今後、周りの人や制度などに対する希望、期待

日時: 令和4年11月29日(火) 9:30~11:45 (開場9:15~)
会場: ひと・まち交流館 京都 3階大会議室
対象: このテーマに興味のある方 200名
(定員オーバーでご参加いただけない方のみご連絡差し上げます。)

参加費: 無料
主催: 京都市
*マスク着用、検温、消毒等新型コロナウイルス感染防止へのご協力を
お願いします。
*新型コロナウイルス感染症の状況などにより、中止や入場制限をさせていただく場合があります。

【申込・お問い合わせ】 11月18日(金) 〆切
京都市西部障害者地域生活支援センター「うきょう」
TEL/FAX: 813-1922
メール: center-ukyou@sogofukushi.jp
*必要事項を記入の上、別紙申込書をFAX、メールにて申し込ください。

「障害のあるきょうだい」 をテーマとして 映画上映



介護疑似体験

4 職員を取り巻く環境の改善に向けて

(1) 職員採用、定着に向けた取組

求人サイト



・インターンシップサイトの充実

・年度後半に社会人採用のサイト（マイナビ介護）も活用

・受験者・内定者のためのLINE相談窓口による効果

・次年度に向け2月採用試験実施



内定者交流会



・内定者向け交流会やZOOM面談を積極的に実施。

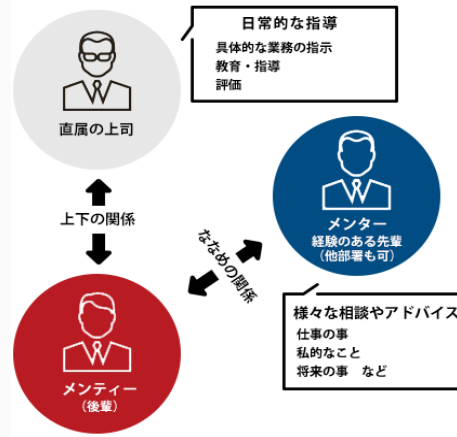
・内定辞退防止や採用前の仲間作りに

メンター制度



・対話（縦ではなく他部署、斜めの関係 6月から本格実施）

・11組延べ32回



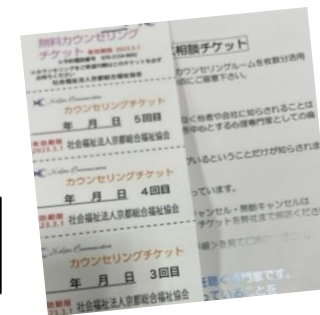
外部相談窓口



・ハラスメント及びメンタルヘルスの外部窓口の継続

・カウンセリング

R4年度からはチケット2回無料→5回に



保健師の採用 (R4年度～)



・メンタル不調時の対応や復職システム、協会全体の衛生委員会立ち上げに向け、企業での経験のある保健師を採用（11月より週1回勤務）

※令和5年4月からは週3回勤務）

管理職員特別 勤務手当 (R4年度～)



管理職員（係長級以上）が災害や感染症対応など臨時又は緊急の必要で休日や午前0時～5時までに勤務した場合の特別勤務手当の創設

入所施設等の 職員の処遇向上 (R4年度～)



- ・夜勤手当の増額
6千円/回→8千円/回
- ・入所所属職員にかかる 主任代行
手当の創設
- ・入所、GH、居宅所属の課長級及び
係長級の管理職手当の増額
1万円増

ジョブリターン 制度 (R4年度～)



経験のある人材の確保を図るため、結婚、妊娠、介護などでやむを得ず退職した正規職員が簡便な手続きで再就職できる制度を創設



- ・福祉就職フェア 2回出展
- ・ここまる福祉 1回出展
- ・介護・福祉のお仕事 1回出展
- ・大学との求人情報交換会



14回の見学会
8回の採用試験
(臨時2回含む)



- ①令和4年度年度途中
3名の採用へ
- ②令和5年4月1日付
13名採用へ





(2) 退職状況：14名（うち定年退職は3名→2名が再雇用職員へ。）

正規職員全体の6.5% ※正規職員216名（令和4年度末）



療護園（身体障害者の入所施設）において、新卒で採用された2名の職員が退職。
大学で学んできたこととの違い、ギャップ。重度身体障害者への介護不安、対応の難しい（罵声をあびせる）利用者への戸惑い。自身が描いていたようには、なかなか支援できないもどかしさ、葛藤等。採用・配属時のマッチングと育成にあたる職員として、これからも新しい職員の不安を受けとめながら、安心して支援に臨める伝達方法などの模索が課題。



新任職員研修



(3) 研修



共通分野研修16回・214名
専門分野研修 2回・140名



人権研修



実践発表会



医療

リスクマネジメント研修



安全衛生推進者研修



次世代
リーダー
研修

アクシデントの発生状況

年間アクシデント数250件(前年度：267件)

件数()内は令和3年度

	死亡 1(1)	骨折 5(11)	火傷 3(1)	創傷 34(32)	打撲 24(19)	誤嚥 1(1)
事故の種類 (利用者 関連)	異食 6(1)	服薬関係 18(13)	財物の損失・ 減失27(35)	交通事故 (加害者又は自損) 5(2)	交通事故 (被害者) 3(2)	その他 97(120)
(職員関連)	交通事故 (職員単独) 8(18)	労働災害 12(8)	その他 3(3)			

・全体の件数は減少。内訳では服薬関係が増加。

(アクシデントを減らす取り組み)

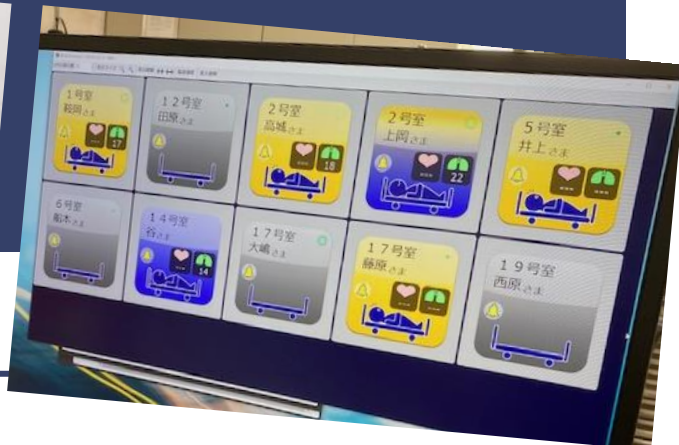
- ・医療リスクマネジメント研修(元身体障害者施設の管理者・看護師に講師依頼)の継続。
- ・所属長会議にて、アクシデント内容と各所属の対応方法について共有→各施設職員に周知
- ・安全運転に向け公用車 無事故無違反表彰制度の継続 令和4年度は事故+違反件数が年間4件減



(4) ICT活用などによる業務改善

IT機器などの活用

- ・福祉の森アプリをタブレットに導入しケース記録の入力業務を施設外でもできるようにした(更生園)。
- ・職員間のメール以外の連絡方法として運営メンバーを中心にLINEWORKSを取り入れ始めた。また、職員全体では活用できていないため、次年度の課題(更生園)。
- ・相談支援では、メディカルケアステーション(MCS、多職種連携ツール)を一部活用し、医療や介護などの関係機関との情報共有をタブレット等で速やかにできるようにした(洛西デイ)。
- ・月1回開催のヘルパー研修実施後にその内容を、新たにYouTubeで視聴できるようにした(居宅支援)。
- ・新たな支援報告管理ソフトVitaを導入。報告書記入の簡略化が図れ、内容の検索、閲覧もスムーズになる。まずは正規職員で試行。ヘルパーも含めた本格始動は令和5年4月を予定。(居宅支援)。
- ・「利用満足度調査」を、Microsoft Formsを使用し実施(かがやき)、虐待の「職員セルフチェック」をGoogleフォームで実施(コスモス、洛西デイ)。
- ・職員室の机について座席を固定化しないフリーアドレス化を実施。年度末に開始したため、まだ、効果は検証できないが、「整理、整頓、清潔」を維持することで、業務の効率性などを高めていく(更生園)。
- ・可動式座敷トイレベッドの増設により、介護負担の減少と、座敷トイレ床からご利用者が自身の体動で落ちるリスクがなくなった。/夜間見守り機器「眠りSCAN」の継続的な活用により不調者の体調管理に効果(療護園)。



5 専門性を生かした最良の支援を目指して

(1) 虐待防止に向けた取組(更生園での実践)

●新たに自閉症委員会を立ち上げ

障害特性の理解として、今年度は自閉症委員会を立ち上げた。スタッフを対象に「自閉症の理解度」と題し、支援に関する基本的な考え方や具体的な支援方法について、テスト形式で学ぶ機会を持った。

●チェックシートの活用

「支援を振り返るチェックシート」は、ここ数年で改善がされていない項目に絞り、2回実施。呼称について1回目が5割、2回目が6割の職員が「〇〇さん」と呼んでいると回答したが、全体の改善までにはつながっていない。また、アンケートでは、職員が利用者に対して「威圧的、大声、命令口調」で話しているとの指摘も多くあった。アンケートの内容によっては事実関係を確認し、職員への個別指導が必要なケースがあった。

他、利用者面談は、4名の利用者を実施した。言葉でのコミュニケーションが難しい利用者に対して、改めて「意思の確認」をすることの難しさを職員が感じている。

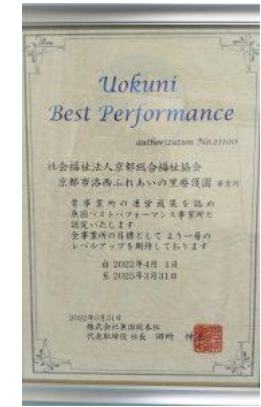
●人権研修など

人権研修として、新規採用・異動を対象にロールプレイを取り入れた研修を実施。他、コロナの影響もあり、集合研修の実施が難しかったため、「虐待が起きる背景」「虐待の捉え方」「通報義務について」の3つの研修動画を視聴(26名)。



(2) 各事業所での支援実践から

ア 給食では、管理栄養士と調理師が利用者に合わせてきめ細かい食事メニューを実現させ、その取り組みは給食会社でも注目され、ベストパフォーマンス賞を受賞するなど評価された（療護園）。



イ 一人暮らしに向けて昨年度より準備を進めていた方が4月に、共同生活が苦手な一人暮らしを希望されていた方が11月に、計2名の女性利用者が一人暮らしを実現された。計画相談支援や居宅支援サービスの各事業所との契約手続きや、引継ぎなど新生活が軌道に乗るまでは、家庭訪問や関係機関と連携を図り、丁寧なサポートを行った（グループホーム西部）。

ウ 強度行動障害など重度のご利用者に対する手厚い支援を行なうため、11名（正規職員9名、補助職員2名）の職員が強度行動障害基礎研修を受講し、重度支援の体制を整えた。個別の手順書や指示書を作成し、職員間で情報を共有して強度行動障害のご利用者が見通しを持ち過ごせるように取り組んでいる。また、9月より重度支援加算Ⅱを申請した。利用者数が多く通常の加算と初期加算を合わせ、かなりの増収にもなった（授産園）。

エ 就労移行のカフェ業務について、「全ての業務を利用者ができるように」「全ての商品を利用者が作れるように」と利用者主体の視点で業務やメニューを見直した。調理への参画や、メニュー改定について利用者と話すことで、カフェ業務に取り組む利用者のモチベーションが上がり、調理に対する興味関心が深まった。それにより就労訓練の効果が高まった（花水木）。

オ 家族支援の一つとして新たに「きょうだいのつどい」を実施した（ポッポ）。

カ 就学を控えた年長保護者に希望を募り、11月と2月に「北山ふれあいセンター見学ツアー」を実施した。花水木と就業・生活支援センターの協力を得て、事業所見学と利用者との懇談の時間を設定した。就業という少し先の将来像を知るよい機会となり大変好評だった。

業務委託により自園での発達検査を実施した。自園で実施することで、検査の様子や検査結果を職員が知ることができ、発達段階の分析ができたり療育に活かす方法を検討したりすることができた。また、保護者の質問に答えたり検査結果のとらえ方を丁寧に伝えたりすることができたため大変好評であった（きらきら園）。

キ 年度当初より長期的に高齢者支援を継続できるよう主任介護支援専門員の配置を行い居宅介護支援事業の運営の安定化を図る予定であったが、具体的に募集をかける時期が遅れてしまった。また、募集をするも応募がない状況が続き配置することが出来なかった。やむなく、令和5年度は1年間の休止として京都市に休止届を提出する方向である（居宅向日葵）。



ク コロナ禍でも利用者の就職を継続して支援

就職者支援数は110名となり昨年度より微増。就職1年経過後の定着率は90.3%となり、昨年度より少し定着率が上がった。しかし、支援学校卒業して一年以内の離職が例年に比べて多く、コロナ禍で在学中に実習する機会を失ってしまい十分にマッチングが出来なかったことが理由として考えられた。コロナ禍における勤務状況やストレス状況の確認を電話やメール、ハガキ等を活用し定着支援に力を注いだ(就業・生活支援センター)。

	令和3年度実績	令和4年度実績
新規登録者数	164	155
相談件数	6173	6381
就職件数	106	110
職場実習件数	54	73

	令和3年度実績	令和4年度実績
花水木	2	1
桂授産園	7	4

(花水木、桂授産園は、基本2年間の就労トレーニングを経て企業就職へ送り出す就労移行支援事業所)

ケ 就労継続B型事業の紫野授産所から1名の企業就労に繋がった。13年にわたり通所されていた。大変能力が高いと事業所内では評価されており、さくさく工房の製菓だけでなく、下請の仕事もなんでもこなされていた。母親のご意向が強く、授産所にずっと通い続けてほしいということであったが、数年前に亡くなられ、自分の人生を改めて見つめなおす機会が訪れた。就職したい、結婚もしたいという希望が上がってきたのをきっかけに、関係機関と連携しながら支援。約2年の取組により事務系の仕事が自分に合っていると意識され、ご縁があった鞍馬口病院の事務補助職採用試験に見事合格された(紫野授産所・就労B型)。

コ 相談の特徴的な新規ケース例として、総合支援学校でない高等学校、通信制の高等学校卒の方の相談、病院からの退院や入所施設等からの退所後の地域移行に向けた支援に関する関係者からの相談等が増加した。その他にも社会とのつながりが希薄な当事者および家族からの相談など、支援センターが持つ情報ネットワークやケースマネジメントの力量が問われるものであった（京都市西部障害者地域生活支援センターうきょう）。

サ 令和2年度からサンセット事業として委託された施設コンサルテーション事業が、令和4年度で終了することとなったが、厚生労働省では、令和4年10月より、強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会が立ち上がる流れなどもあり、京都市においても引き続き発達障害者地域支援マネジャーが継続して配置されることになった。

コンサル事業継続の検討にあたり実施した、かがやきによるアセスメントの利用状況調査アンケートの結果では、「とても役に立った」が50%、「役に立った」が50%となった。具体的な意見として、「アセスメント結果により、本人の自閉症の特性理解ができた」、「本人への関わり方の見直しに繋がった」、「支援者間で本人の自閉症特性の共通認識作りが出来た」、「ケースを通して行動障害の支援の考え方を学んだことにより、強度行動障害のある方に対して、施設への受け入れに前向きになれた」など、より専門性の高い困難ケースの対応への助言や地域の機関・事業所等へのバックアップの必要性が伺えた（京都市発達障害者支援センターかがやき）。

シ 桂授産園、洛西デイの2施設で第3者評価を受診。支援を進めるにあたってのプライバシー保護や情報の取扱いなどについて助言を受けた。

ス 今年度もSDGsに関する取組を行った。

・リコーが主催するSDGsフェアに3事業所が出展。日常の取組を発信（授産園、紫野授産所、花水木）。



・新たに、不要になった衣服の回収ボックスを設置し、掃除などでのウェス（ボロ布）として活用（コスモス）。

喫茶で作り過ぎて廃棄していたコーヒーや紅茶をゼリーにしてお客様へSDGsゼリーを提供（花水木）。

・節電、節水の意識向上。空き缶、ペットボトルのリサイクル活動（更生園）。

・食品・資材などのロス削減として、廃棄量計算を継続。レジ袋有料化にともなうプラスチック製品流通抑制の継続（紫野授産所）。

・貧困問題の解決に寄与：製菓の原材料として、適正価格で取引されるフェアトレードの黒糖やココナッツシュガーを使用した商品の製造・販売を継続（紫野授産所）。

